

# 都市再生整備計画

きたせんりしょうがっこうあとちしゅうへん  
北千里小学校跡地周辺地区（第4回変更）

大阪府 すいた吹田市

令和5年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大阪府	市町村名	すいたし 吹田市	地区名	きたせんり しょうがっこうあとち しゅうへん 北千里小学校跡地周辺地区	面積	266.7	ha
-------	-----	------	-------------	-----	--	----	-------	----

計画期間	令和 元 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 5 年度
------	-------------------	------	-------------------

### 目標

- 「多世代が集い、にぎわいのあるまちの創出」
- ・児童館・図書館・公民館からなる複合施設及び地域交流広場を活用した、子育て・学び・多世代交流の拠点づくり
- ・阪急北千里駅から施設へのバリアフリーネットワークの構築による、安心・快適な歩行者空間の確保

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

本市は、大阪府の北部に位置し、南は大阪市に接しており、面積約36平方キロメートル、人口約37万人(平成27年国勢調査による)の都市である。恵まれた立地条件と長年にわたる良好なまちづくりへの取組により、現在でも人口が増加し続けている。また、市内全域が市街化区域かつDIDに指定されており、高密度な人口集積を背景に、鉄道駅とバス停利用圏域により市内全域がほぼカバーされ、公共交通にも恵まれている。医療・福祉施設、保育・子育て施設、商業施設についても、ほぼ市全体にわたりおおむね徒歩圏内に位置している。

一方、急増する子育て世代への対応策として保育・子育て施設の整備、長期的に増加する高齢者に対応する福祉施設等の整備が課題となっている。本市は空閑地が少なく、共同住宅を中心とする非木造建築物の割合が高いことから、各種の都市機能の新たな導入を図る際には、単なる施設整備ではなく複合的な再整備事業として実施する機会が多い。そのような中、今後、社会情勢の変化に対応した都市機能の適切な配置のためには、計画的な都市再生事業の実施が望まれる。

こうしたことから、吹田市立地適正化計画(平成29年3月策定、平成30年3月改定、令和4年3月改定)では、吹田市都市計画マスタープラン(平成27年3月策定)の基本理念の実現に向けた本市全体の都市再生を促進するものとして、市内7区域の都市機能誘導区域、各区域におけるまちづくりの方針、誘導施設等を設定している。

＜吹田市立地適正化計画に定めるターゲット(まちづくりの方針)と誘導施設の位置づけ＞

【ターゲット1】健康に安心して暮らせるまちづくりの推進:国立循環器病センター及び市立吹田病院を都市機能誘導区域への誘導施設として位置づけている。

【ターゲット2】安心して子育てできるまちづくりの推進:定員60名以上の保育施設(保育所、認定こども園)、児童館、子育て支援施設を都市機能誘導区域への誘導施設として位置づけている。

【ターゲット3】文化・教育、学術等が充実したまちづくりの推進:図書館やコミュニティセンター、大学を都市機能誘導区域への誘導施設として位置づけている。

公的不動産の活用の方針について、本市は前述の背景から都市機能誘導区域の市域に占める割合が大きく、市街地そのものの集約化をめざした施設の立地誘導は行わないが、各都市機能誘導区域において、それぞれの地域課題に応じた上記のターゲットを適宜設定し、課題解決及び魅力向上に向けた機能集約を図ることとしている。併せて、公共施設の整備や再配置に当たっては、地域の特性に応じながら複合化や集約化など最適化を図り、まちの機能性・利便性の向上をめざしている。

千里ニュータウンにおいては、北千里小学校跡地周辺地区を含む北部への子育て世代を支援する機能の誘導、教育・文化、学術・研究機能の強化などが課題となっている。高齢化率は市内他地域に比べて高く、今後も高齢化の進展が予測される中、地域交流の場づくりやバリアフリー化は重要性を増している。そこで【ターゲット1】「安心して子育てできるまちづくりの推進」及び【ターゲット3】「文化・教育、学術等が充実したまちづくりの推進」を設定し、地域ニーズや社会変化に対応しながら、地域内で子育て世代が増加しつつある傾向を維持し、多世代が集う千里ニュータウンの活性化に向けた取組を進める必要があるとしており、北千里小学校跡地を活用した複合施設(児童館・図書館・公民館)の整備により子育て世代を支援する機能、教育・文化機能を誘導するとともに、1施設に機能を集約し、地域の機能性・利便性の向上を図ることとしている。

まちづくりの経緯及び現状

本地区が位置する千里ニュータウンは、みどり豊かで計画的に整備されたまちなみが広がっている。まちびらきから半世紀以上が経過し、老朽化した公的住宅の集約建替が進むとともに、余剰地へのマンション開発が行われている。このため、住宅供給が進み、子育て世代が流入していることなどから、減少傾向にあった人口は、近年、増加傾向に転じている。一方で、本市市域内の千里ニュータウンでは、子育て支援施設が広い区域に対して南側に偏って立地しており、本地区が位置する北側は未整備である。

千里ニュータウンの地域内や周辺には、千里金蘭大学や大阪大学などの学術・研究機関が立地しており、多くの学生が集う地域でもある。また、高齢化、地域コミュニティの希薄化が進む中、子供や学生など若い世代から高齢者までの、高度化・多様化する学習ニーズに対応することや、生涯学習活動や文化活動を通じた多世代交流の場づくり、学んだ人が学習成果を地域へ還元できる仕組みづくりは重要性を増している。これらの機能の中核を担う図書館や公民館は機能性や利便性の向上が望まれるが、北千里地区公民館は老朽化が進んでおり、また、千里図書館北千里分室は老朽化に加え、分室であるためスペース不足の状況にあり、十分なサービスが提供できていない状況である。

また、千里ニュータウンにおける高齢化率は、市内の他の地域と比べて高い水準である。一方、北千里地区は丘陵地にあるため、地形の起伏があり、阪急北千里駅と生活関連施設を結ぶ経路において、急勾配、歩道の幅員不足等の課題がある。北千里小学校跡地についても、阪急北千里駅から近い距離に位置するものの、経路の起伏が大きく、また、バリアフリー化も不十分であり、小さい子連れの方や高齢者、障がい者の通行においては、負担が大きい。今後の高齢化の進展も見据えながら、誰もが快適に過ごすことができる歩行者空間の確保に向けた取組を進める必要がある。

市民を対象としたアンケート調査では、「歩行者にとっての道路の安全性」の満足度は市内他地域と比べて高い。「コミュニティ活動の充実」の満足度は平均的な水準である。「子どもを育てる環境」「生涯学習に関する環境」の満足度は他地域と比べてやや低い水準であり、経年で見ると「子どもを育てる環境」の満足度は緩やかな低下傾向にある。これらの数値についても留意しながら地域の魅力向上を図る必要がある。

また、本地区と隣接する千里北地区センターは、近隣住区論に基づき、近隣3住区の住民の暮らしや地域活動を支える拠点として整備され、現在では、近隣3住区を超える広範な地域を対象とする拠点としての役割を担っている。一方、開業から約50年、店舗リニューアルから約20年経過し、施設の老朽化や、周辺の大規模商業施設の開業など商業環境の変化、高齢化や成熟社会への移り変わりのなか、地区センターの機能と利用者ニーズとの乖離も見られており、成熟社会にふさわしい地域拠点となるような活性化に向けた取組を進める必要がある。

### 課題

- ・子育て世代が流入する状況に対応するための、子育て世代を支援する機能の誘導
- ・高度化・多様化する住民の学習ニーズへの対応するための、教育・文化、学術・研究機能の強化
- ・生涯学習活動や文化活動などを通じた多世代交流の場づくりの推進
- ・地域住民や施設利用者が交流し、憩い、にぎわう場の確保
- ・だれもが利用しやすく安心・快適な歩行者空間の確保に向けたバリアフリー化の推進

将来ビジョン(中長期)  
 【吹田市第4次総合計画 基本構想(素案)・基本計画(素案)】(平成30年7月時点)  
 ・吹田市の将来像として、まちの魅力や強みをさらに高めながら、確実に将来世代へつなぎ、だれもが安心してすこやかで快適に暮らし続けられるまちをめざすとしている。  
 ・施策の大綱6「都市形成」政策1「みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」では「地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」を目標としている。  
 【吹田市都市計画マスタープラン】(平成27年3月策定)  
 ・「暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくり」「誇りと愛着の持てる活力あるまちづくり」をまちづくりの基本理念としている。  
 ・「地域ごとの特徴ある拠点市街地の形成」「都市間・拠点市街地間のネットワークの形成」「人と自然の共生空間の形成」を都市空間の将来像としている。  
 ・北千里駅周辺においては、現在の市民ニーズに対応した機能の再編やアメニティの向上により、地域の中心としての機能の充実をめざしている。  
 【吹田市立地適正化計画】(平成29年3月策定、令和4年3月改定)  
 ・「快適で安心して暮らせる住みやすい居住環境の構築」「地域ごとの価値を高める拠点機能の充実」「日常的な生活を支える施設のさらなる充実」を住居及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する基本的な方針とし、市内7区域の都市機能誘導区域、各区域におけるまちづくりの方針や、誘導施設等を設定している。  
 【千里ニュータウン再生指針2018】(平成19年10月策定、平成30年3月改定)  
 ・再生の目標「みんなで夢を育み 次代につなぐ 千里ニュータウン」に向けた6つの将来像「多様な世代が交わり、楽しめるまち」「みどり豊かで、健康に暮らせるまち」「誰もが輝き、支え合うまち」「持続発展する、イノベーションのまち」「北大阪の核として、広域とつながるまち」「みんなで協働して、育むまち」に向けた取組を進めることとしている。  
 【吹田市バリアフリー基本構想】(平成20年3月策定)  
 ・北千里地区をバリアフリー重点地区として選定している。北千里地区は丘陵地にあるため、地形の起伏がある。このため、阪急北千里駅と生活関連施設を結ぶ経路において、急勾配、歩道の幅員不足等の課題があり、バリアフリー化のための事業を実施する必要があるとしている。

**都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

都市機能配置の考え方  
 ・子育て世代に対する支援機能の誘導、教育・文化、学術・研究機能の強化、さまざまな地域活動を通じた住民相互の交流の場づくりの推進のため、児童館・図書館・公民館からなる複合施設を整備するとともに、地域住民や施設利用者の交流、憩い、にぎわいを創出するため、地域交流広場を整備する。  
 ・安心・快適な歩行者空間の確保に向けて、地区内生活関連施設から複合公共施設までの歩道について、点字ブロックの設置や段差の改善などバリアフリー化を実施する。  
 ・千里北地区センター(関連事業)においては、成熟社会にふさわしい地域拠点となるよう、役割・機能を見直し、再整備について検討を進めている。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方  
 ・誘導施設(児童館、図書館)  
 子育て世代を支援する機能の誘導及び文化・教育、学術・研究機能の強化を図るため、誘導施設として、児童館の新設と市立図書館の移転を前提とした複合施設を整備する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

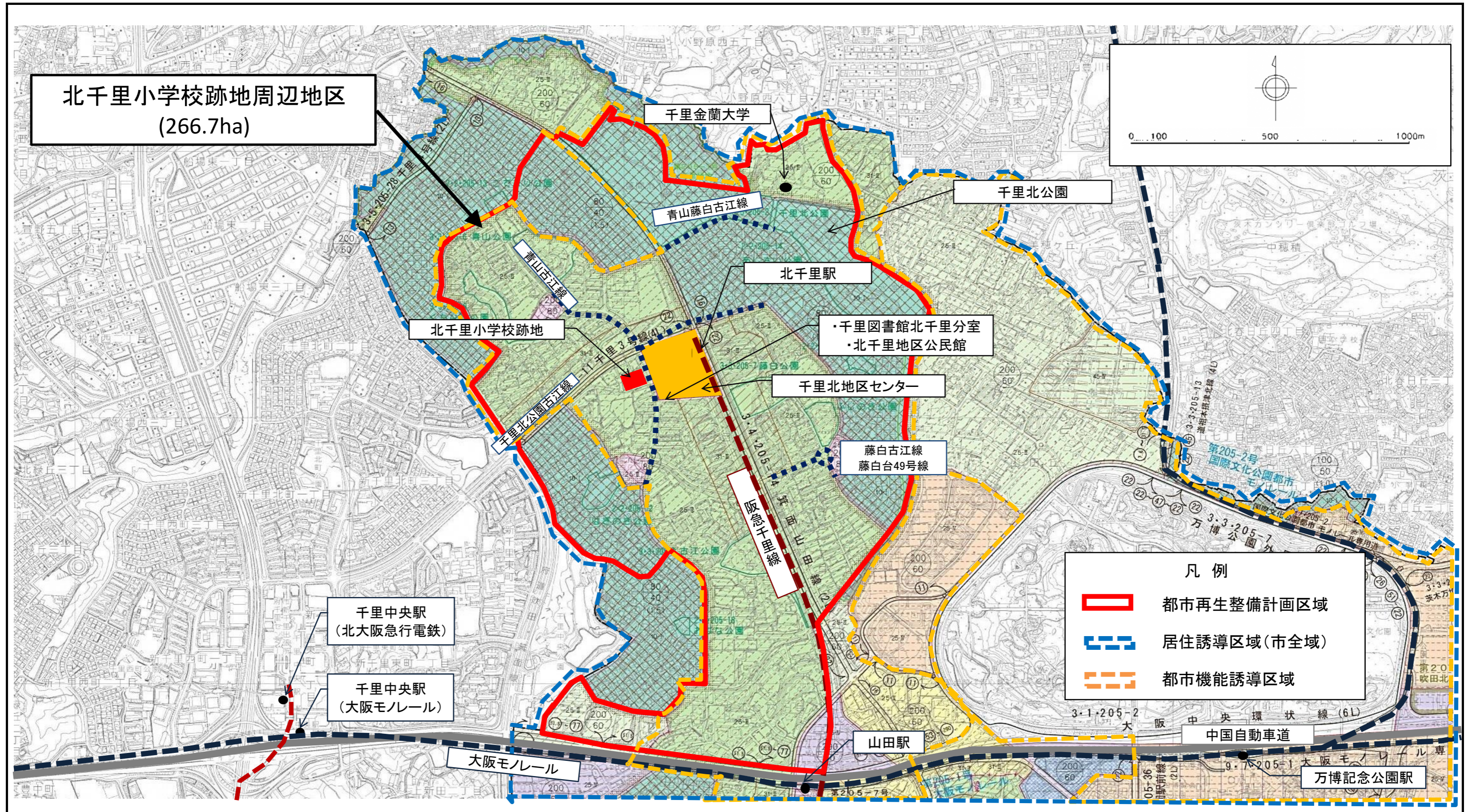
**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
各施設の利用者数	人	複合施設に入居する各施設(児童館、図書館、公民館)の年間利用者数。なお、従前値については、千里図書館北千里分室と北千里地区公民館の利用者数とする。	子育て・学びの拠点の創出及び安心・快適な歩行者空間の確保により、各施設の施設利用者数の増加が見込まれる。	9.4万人	H29	16万人	R4
子どもを育てる環境について満足している割合	%	市民を対象とする意識調査の結果による(対象地域:千里ニュータウン・万博・阪大地域)	児童館が整備されることにより、子育て世代を支援する機能が強化され、満足割合の改善が見込まれる。	36.4%	H30	41%	R4
生涯学習に関する環境について満足している割合	%	市民を対象とする意識調査の結果による(対象地域:千里ニュータウン・万博・阪大地域)	図書館・公民館が整備されることにより、教育・文化機能が誘導され、満足割合の改善が見込まれる。	12.1%	H30	13%	R4
コミュニティ活動の充実について満足している割合	%	市民を対象とする意識調査の結果による(対象地域:千里ニュータウン・万博・阪大地域)	図書館・公民館の機能性向上により、幅広い世代層の地域活動での利用が見込まれ、満足割合の改善が見込まれる。	19.2%	H30	26%	R4
歩行者にとっての道路の安全性についての満足度	点	市民を対象とする意識調査の結果による(対象地域:千里ニュータウン・万博・阪大地域)	安心・快適な歩行者空間の確保により、満足度の改善が見込まれる。	63.8点	H30	68点	R4

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【児童館・図書館・公民館からなる複合施設及び地域交流広場を活用した、子育て・学び・多世代交流の拠点づくり】                      ・北千里小学校跡地に、児童館(新設)及び図書館(移転)、公民館(移転)及び共用諸室からなる公的複合施設を整備する。共用諸室の整備においては、各施設の利用者が集まり、自由に憩うことのできるスペースを設けることで、多世代が活発に交流することができる拠点づくりを図る。またあわせて地域住民や施設利用者の交流、憩い、にぎわいを創出するため、地域交流広場を整備する。</p>	<p>高次都市施設:北千里小学校跡地 公共複合施設(地域交流センター:北千里地区公民館建替事業、)の整備                      誘導施設:北千里小学校跡地 公共複合施設(児童館、図書館)の整備                      地域生活基盤施設:地域交流広場                      (関連事業):北千里駅前再生のまちづくり</p>
<p>【阪急北千里駅から施設へのバリアフリーネットワークの構築による、安心・快適な歩行者空間の確保】                      阪急北千里駅から施設への経路を、点字ブロックの設置や段差の改善によりバリアフリー化し、だれもが歩きやすい快適な歩行者空間を確保する。</p>	<p>道路事業:千里北公園古江線、青山古江線、青山藤白古江線、藤白古江線、藤白台49号線の歩道の点字ブロック設置及び段差の改善工事(各線の一部、計 2,300m)                      公園事業:千里北公園(301,000㎡) 園路1の点字ブロック設置及び段差の改善工事(1320.0㎡)</p>
<p>その他</p>	
<p>本市において、児童館・児童センターは、乳幼児から小学生までの幅広い年齢を対象としている。遊びの場や読書、自習の場を提供し、児童厚生員が子どもたちと一緒に遊んだり、見守りをしたりするとともに、さまざまな催しを企画しており、子どもたちが楽しく快適に過ごせる施設となっている。また、小学校に入る前の乳幼児とその保護者を対象として、各種の子育て支援の催しを実施するほか、子育て中の保護者の育児サークルに貸し部屋を提供し交流の促進を図るなど、さまざまな子育て支援の取り組みを進めている。北千里地域においては近年、乳幼児・小学生人口が大幅に増加しており、平成25年3月末の北千里地区人口は26,867人で、平成30年3月末は28,884人である。うち0歳から14歳の年少人口は12,085人から13,109人に増加。北千里地区人口の2,017人増加のうち年少人口の増加が1,024人と人口増割合のうち半分を占めており、今後も乳幼児・小学生人口はさらなる増加が見込まれる。未整備地域である本地域に児童館を整備し、地域の子育て支援の充実を図ることで、地域の活性化に寄与できると考えられる。</p> <p>また、図書館については、既存の千里図書館北千里分室よりも蔵書数や資料の種類を充実させるとともに、館内でゆっくりと過ごすことができるよう、座席の配置等を工夫する。読み聞かせや工作教室など乳幼児・子ども向けの行事、地域のニーズに応じた大人向けの行事を開催し、新たな利用者の呼び込みを図る。その他、本を読むことが困難な人への対面朗読サービス専用の部屋の設置など障がい者サービスの充実や、施設の拡充によって生まれる空間を活用し、読み聞かせボランティアの活動などへの支援を図る。</p> <p>北千里地区公民館については、3小学校区(古江台、藤白台、青山台)の広範囲を対象地域としている。社会教育法に基づく生涯学習施設である公民館は、一般教養から様々な分野にわたる各種の講座・講演会等の事業を実施するほか、生涯学習グループの自主学習の場や地域住民の集会施設として利用されている。毎年秋には、「地区公民館文化祭」を開催し、多彩な展示や演芸発表等を行っており、施設利用者は5,000人を超える。児童館、図書館との複合により、それぞれの利用者による公民館の活用や、3館合同のイベントの開催などが想定される。一層、身近な地域の学びの拠点となり、また、多世代が集い、世代間交流が促進されることで、地域の活性化に寄与できると考えられる。</p> <p>千里北地区センターにおいては、成熟社会にふさわしい地域拠点となるよう、役割・機能を見直し、「北千里駅周辺活性化ビジョン」(平成28年4月)としてとりまとめ、活性化の目標「人がひとを結び、豊かな生活を育む、『北千里』の実現に向け、再整備について検討を進めている。</p>	



北千里小学校跡地周辺地区(大阪府吹田市)	面積 266.7 ha	区域 吹田市古江台1丁目の一部・2~6丁目、青山台1丁目・2丁目の一部・4丁目、藤白台1~4丁目・5丁目の一部
----------------------	----------------	--



北千里小学校跡地周辺地区(大阪府吹田市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	「多世代が集い、にぎわいのあるまちの創出」 ・児童館・図書館・公民館からなる複合施設を活用した、子育て・学び・多世代交流の拠点づくり ・阪急北千里駅から施設へのバリアフリーネットワークの構築による、安心・快適な歩行者空間の確保	代表的な指標	各施設の利用者数 (人)	9.4万人 (平成29年度) → 16万人 (令和4年度)
			子どもを育てる環境について満足している割合 (%)	36.4% (平成30年度) → 41% (令和4年度)
			生涯学習に関する環境について満足している割合 (%)	12.1% (平成30年度) → 13% (令和4年度)

